

会派行政視察報告書

令和2年2月10日
市政会 石川 智子

1. テーマ 明石駅前市街地再開発事業の概要について
明石市養育費立替パイロット事業について
市民情報化サイト 岡山市電子町内会について

2. 日程 令和2年1月23日(木)～令和2年1月24日(金)

3. 視察先 明石市、岡山市

4. 内容

～1日目～ 1月23日(木)

兵庫県明石市調査

兵庫県明石市は、県の中南部にあり、神戸市に隣接する東経135度の日本標準時子午線上に位置し、瀬戸内海に面している。阪神都市圏と播磨臨海地域、淡路・四国とを結ぶ陸海交通の要衝にあり、産業都市として発展。近年では、神戸市や大阪市のベッドタウンとしても発展している。一時減少していた人口は、2013年から増加に転じ、2018年に中核市に移行した。人口約30万人、面積49.42km²。

■明石駅前市街地再開発事業について

(1) 概要について

◇従前の状況

明石駅前南地区は、延べ約13万人/日が乗降するJR・山陽電鉄明石駅の南側に位置し、大型小売店、飲食店、映画館などが立地し、市の中心商業地区として発展してきた。平成7年にはJR・山陽電鉄の連続立体交差事業に伴い駅前広場が整備され、公共交通拠点としての役割も担ってきた地域である。

しかし、平成17年に地区内大型小売店が撤退したことを契機に、商業機能の衰退が進み、地区内建物の老朽化に伴う防災上の課題も顕著となった。また、国道2号線を隔てた「魚の棚商店街」や先行して再開発された「アスパア明石」など、周辺の商店街や商業施設との回遊性も保たれておらず、駅前地区としての十分な機能を果たせていない状況であった。

◇事業の目的

この再開発事業は、明石市が策定し平成22年に大臣認定を受けた「明石市中心市街地活性化基本計画」の中で核的事業として位置づけられており、計画の基本コンセプトとして「人々の暮らしを、海・食・時で彩るまち明石」を前面に掲げ、明石の玄関口にふさわしい顔づくりを行う。

◇事業の特色

- ・中心市街地活性化基本計画との連携、大型公共施設の導入

外部からキーテナントを誘致するのではなく、市民の声を反映した、人々の暮らしをサポートする明石市の大型公共施設を導入することを決定。

- ・中心市街地の回遊動線の創出

再開発ビル2階中央部の「あかし市民広場」を中心とした、再開発ビル内の自由通路や、2階のペデストリアンデッキ等による歩行者回遊動線を計画することにより、駅前と周辺を中心市街地をつなぐ人の流れを創り

出すことを目指した。

- ・事業による経済波及効果

(2) パピオスあかしの開設の経緯

平成 17 年の地区内大型小売店撤退後、明石市の声かけに応じて「共同化検討会議」が発足し、再開発に向けた検討に着手。平成 21 年 12 月「再開発準備組合」の設立以降、明石市の政策変更・事業の見直しのための住民投票請求や建築資材の高騰など、幾多の困難な課題があったが、平成 28 年 12 月「パピオスあかし」の商業施設の開業に至った。

◇施設名称「パピオスあかし」

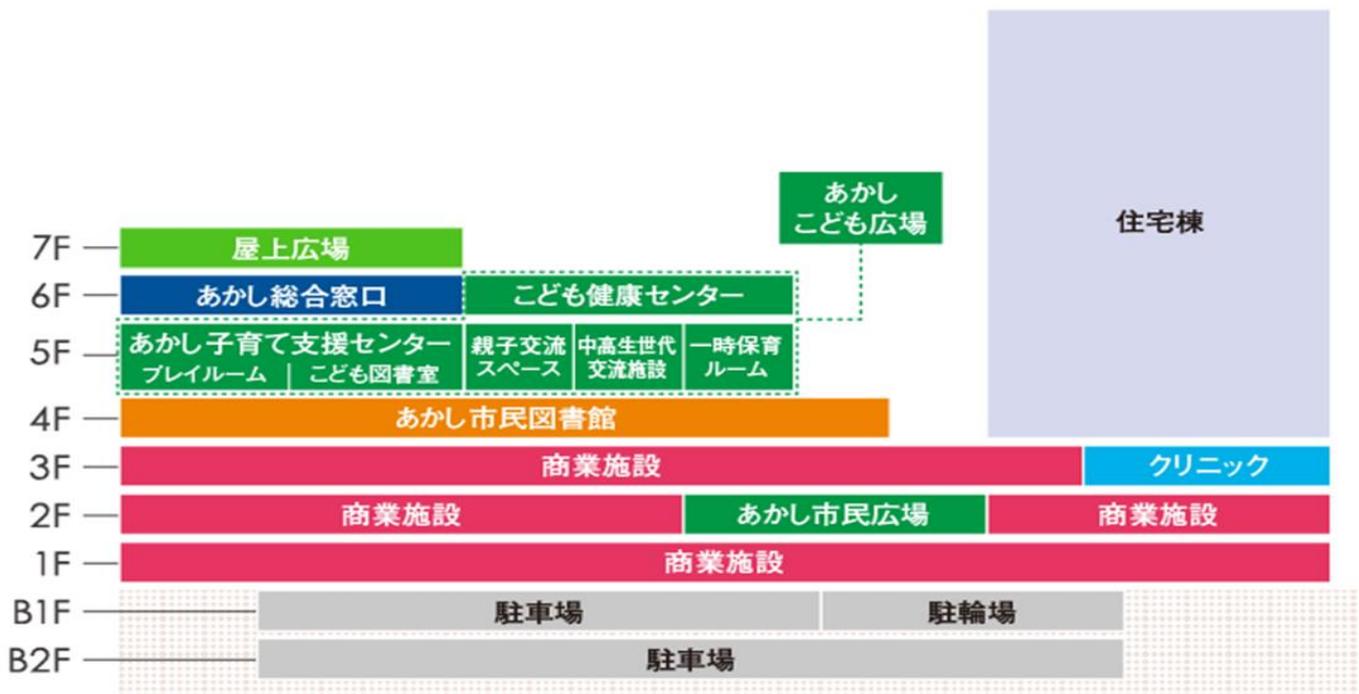
再開発ビルの施設名称を平成 27 年 7～8 月にかけて一般公募を行い、応募総数 2414 通の中から決定。



「再開発ビルが市民の憩いのオアシス・殿堂となり、明石市の新しい文化を創造する広場になるように」との願いを込めて、次のようにキーワードの文字をつないだ造語。

- ・『パ』: 殿堂のパレス +
- ・『ピ』: 広場を意味するイタリア語のピアッツア +
- ・『オス』: 推進するの意味のオス（押す）とオアシス

◇施設概要



中層の施設棟(店舗・業務、公共施設など)と、超高層の住宅棟を3層吹抜けの「あかし市民広場」でつなぐ構成。「あかし市民広場」は、駅前と南側に広がる「魚の棚商店街」など中心市街地をつなぎ人の流れを創出し、

室内から明石駅、明石公園への眺望を確保した開放的な空間。約 500 m²のフリースペースとしており、様々な催しのできるイベント空間や市民の憩いの空間として、中心市街地の回遊の核となる施設としている。

・住宅の概要

まちの活性化の基盤となる定住人口を拡大し、持続的なまちの賑わいを創出するため、良質で快適な居住環境をもつ超高層住宅を、4階～34階に216戸設けた。

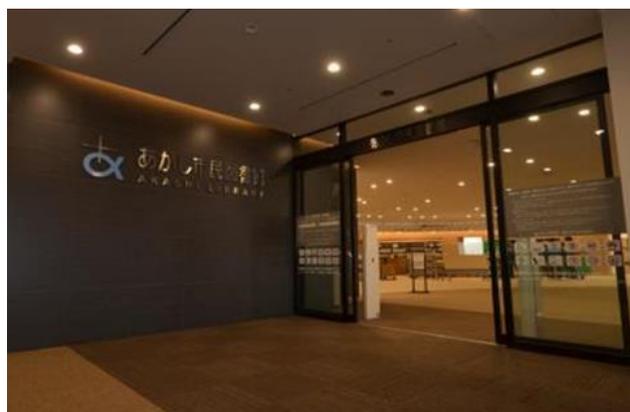
・店舗業務施設

1，2階は、飲食、物販、サービス店舗など、幅広いターゲットを対象とした業種構成とし、回遊性、楽しさ、賑わいのある駅前の集客拠点づくりを目指す。3階には、クリニック施設などの目的性の高い施設を配置。

・公共施設の概要

施設棟4階から6階には、公共施設を配置し、市民の暮らしをサポート。

4階 あかし市民図書館



- ①おはなしのへや ②赤ちゃんえほんコーナー ③多目的室 ④対面朗読室 ⑤ラウンジ ⑥新聞・雑誌コーナー
⑦サービスタワー ⑧ギャラリー ⑨電子閲覧室 ⑩ふるさと資料コーナー ⑪ユニバーサル資料コーナー
⑫閲覧室1 ⑬閲覧室2
- ♿…トイレ ♿…多目的トイレ ♿…こどもトイレ ♿…授乳室 ♿…オムツ交換台
🗳…コインロッカー 🗳…エレベーター 🗳…エスカレーター 🗳…階段

5階 あかし子ども広場



一時保育ルーム（にこにこ保育ルーム）

あかし総合窓口やこども健康センター等に用務のある場合のほか、明石駅周辺の観光施設や商業施設をご利用の場合、冠婚葬祭や育児疲れ、リフレッシュ等の場合に、お子さんを一時的に預けることができます。保育士の資格を持った職員が対応。定員 38 名。市内初の一時預かり専用保育施設。

あかし子育て支援センター（プレイルーム・こども図書室）

プレイルーム

ごっこ遊びができるキッチン遊具やすべり台・ボールプールなど、たくさんのおもちゃで親子一緒に遊んでふれあえる。子育てアドバイザーによる子育て相談もできる。

こども図書室

約 8,000 冊の幼児向け絵本や小学生低学年向け図書、保護者向けの育児書などの閲覧と貸し出しができる。

親子交流スペース



人気の大型遊具や約 3 万個のボールプールなどの遊具があり、乳幼児から小学生まで利用できる。

中高生世代交流施設



中高生が集い交流を深めるためのスペース（フリーWi-Fi設置）や、音楽スタジオやダンススタジオなどの設備を備えた、中高生の活動と育成を支援するためのコミュニケーションスペース。

6階 あかし総合窓口 こども健康センター



あかし総合窓口



明石駅前のパピオスあかし6階に、便利な市役所窓口を開設。平日は午後8時まで、土日祝日（第3日曜日を除く）も午後5時15分まで開所しているため、仕事帰りなどにも利用できる。

- ・住所の変更・戸籍の届出・印鑑登録、各種証明書（住民票・戸籍・印鑑・市税等）の発行、市税・保険料等の支払い
- ・国民健康保険 後期高齢者医療 / 高齢者福祉医療
- ・国民年金・介護保険・児童福祉・障害福祉・高年福祉

こども健康センター



妊娠中からお母さんとこどもの健康をサポート。健やかに安心して妊娠・出産・子育てが行えるよう妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目なく支援をしている。母子健康手帳の発行、妊婦健康診査の助成、乳幼児健康診査、予防接種券の発行を行っている。

(3) 成果、課題について

- ・子育てに力を入れることで、まち全体がみんなにやさしいまちになった。
- ・明石の玄関口の駅前ビルが市民の声を反映し完成し、まちの象徴となる子育て支援の拠点、明石の顔となった。
- ・人口が増え、税収も上がり、まちが活性化された→まちの好循環を生み出している。
- ・まだまだ不十分だと考えているので、できることから取り組んで進化させていきたい。

■明石市養育費立替パイロット事業について

(1) 概要について

- ・養育費はこどもの健やかな成長に必要な不可欠なものであり、諸外国では行性が主体となり、養育費確保支援を当たり前のように実施しているが、わが国で実際に養育費を受け取っている割合は25%に満たない状況であるため、この状況を打開するため、官民連携して実施することとした。

・離婚後のこども養育支援の中の養育費確保支援として、2018年11月から実施。全国初の取り組み。

市が業務委託した総合保証会社が養育費を保証。

対象は、調停調書などで養育費の取り決めをしたひとり親家庭。

市が業務委託した保証会社が、養育費の取り決めをしたひとり親家庭との間で養育費保証契約を締結。初回の保証料は、市が負担(上限5万円)。養育費の不払いがあった場合は、同社がひとり親に対し養育費の不払い分を立て替えて支払い、別居親に対し立替分を督促して回収する。

- ① 保証期間 契約締結日から1年間(2年目以降は更新料の自己負担により継続可)
- ② 年間保証料 初回：養育費1か月分
更新：養育費0.5か月分
- ③ 保証内容 ひとり親家庭が受け取れなかった月の養育費を保証会社が立て替えて支払う(最大12か月分)
- ④ 保証会社 株式会社イントラスト(総合保証会社・一部上場)
- ⑤ 予算措置 90万円(平成30年度当初予算)

□所感

今回明石市では、明石駅前市街地再開発事業についてと、養育費立替パイロット事業についてのお話を伺いました。

明石駅前市街地再開発事業については、明石市長自らご説明いただきました。

「こども」・「本」・「やさしい」の三つのコンセプトでまちづくりをすすめているとのことで、未来そのものであるこどもにやさしいまちをつくれれば、みんなにやさしいまちになると考え、駅前の再開発ビルをやさしさを感じるビルにしたいという思いから、市民の声を反映した①図書館②子育て支援施設の入った明石のまちの象徴的なビルを目指したそうです。

施設を見学しましたが、子育て支援の理想的なビルとなっており、例えばお子さんの健診時に、お兄ちゃんやお姉ちゃんを一時保育スペースに預けることができたり、一時保育に預けている間に歯医者さんや美容院に行くことができたり、親子交流スペースでは天候を気にすることなく親子でふれあえて、無料で利用できます。市役所の総合窓口もあり、とても便利です。中高生の交流施設もあり、今後学習スペースの拡張を図るそうです。また、図書館と本屋が同じビル内にありますが、相乗効果を生み出しているとのことでした。2階のあかし広場には手話テレフォンが設置されており、飲食店には筆談ボードも完備。子育てを中心としたやさしさあふれるまちになっていると感じました。平日の日中でしかもお天気が悪い日にもかかわらず、たくさんの人でにぎわっていて、まさに明石のまちの象徴となっていました。

養育費立替パイロット事業についても、こどもに寄り添い、こどものもとに親の愛情を届けたいという思いから始めた事業だそうです。

「明石市の良さと限界を知る」という市長の言葉どおり、ベッドタウンであるまちの得意分野を活かし、「暮らす・育てる」に特化し、常に市民の声をうけて、こどもを核としたすべての人に「やさしい」まちづくりをすすめているとのことで、とても感銘を受けました。そして、このまちづくりによって市民の91%が住みやすいと感じ、人口増、出生数増につながり、まちが活性化、好循環につながっている明石のまちづくりに、多くのことを学ばせていただきました。

本市においても、明石市の取り組みを参考にし、知立の特性や得意分野をのばしていけるようなまちづくりに取り組み、活気あふれる住みよい知立市を目指していきたいと考えます。

～2日目～ 1月24日(水)

岡山市調査

岡山市は、県の中央部、旭川と吉井川が瀬戸内海に注ぐ岡山平野の中央に位置し、北部には吉備高原の山々が連なる。江戸期には、池田家 31 万石の城下町として栄え、日本三名園の一つである後樂園を築いた。現在は、瀬戸大橋、岡山空港、山陽自動車道、岡山自動車道など、広域高速交通網の整備が進み、中四国地方の中核都市として発展している。平成 21 年 4 月 1 日、全国で 18 番目の政令指定都市に移行している。面積は 789.95 km²、人口約 72 万人。町内会数 1714、町内加入率 79.8%。

■市民情報化サイト 岡山市電子町内会について

◇電子町内会とは？

・インターネットを使って町内会活動をはじめ、地域の情報を広く発信したり、また、町内会の会員同士で身近な出来事の情報をお互いに教えあったりして、地域のコミュニティの盛り上げをすすめていくもの。

(1) 事業の背景と目的

平成 13 年度当時「岡山市における電子自治体の構築」というものがあり、その目標、重点施策が以下の 3 点

- ・行政の効率化、高度化を推進する「市役所の情報化」
- ・市民に対する行政サービスを向上する「行政手続の情報化」
- ・市民の情報活用能力を高める「市民の情報化」

であり、電子町内会は市民の情報化(市民が自発的に情報通信技術)の活用を図るもの)の中に含まれていた。住民自治組織である「町内会」の地縁によるつながりなどの良さを残しながら、事務処理の効率化、情報の共有化、地域におけるコミュニティの活性化などを ICT の持つさまざまな可能性を探りながら、地域情報化を推進するために、電子町内会を立ち上げた。

(2) 事業の概要、経緯

- ・平成 14 年(2002 年)3 月 7 つのモデル町内会(1 連合町内会と 6 単位町内会)が運用開始。
- ・平成 14 年 4 月 IT ヘルプセンター設立
公民館における IT 講習の実施に向けて、「緊急雇用対策事業」を獲得(平成 14、15 年度分について)
- ・平成 16 年 1 月「e まちづくり交付金(総務省)」を利用したシステムの更改
- ・平成 28 年 10 月 システムリニューアル

システム運用から 10 年以上が経過し、システムの老朽化、セキュリティの問題等により、システムのリニューアルを行った。CMS 機能の導入により、簡単にページ作成ができ、スマートフォン・タブレット等の携帯端末に対応できるようになった。ソーシャルメディアの普及により、電子町内会会員専用の電子掲示板を廃止。

(3) 事業の成果・今後の展望

- ・平成 28 年 3 月末現在 連合町内会 37 単位町内会 42 が利用。
- ・令和元年 1 1 月末現在のエリアカバー率は 50.51%、参加町内会数 87。
- ・令和元年 1 2 月の町内会平均アクセス数 220.23 一番アクセスが多い町内会では 2446 だった。
- ・電子町内会は地域の情報を効率的に伝達する手段であるため、防犯・防災情報、身近な生活に役立つ情報等や、地域の歴史等の情報の蓄積など、さらなる活用方法を検討していきたい。

(4) 課題について

- ・認知度が低い。→周知・啓発活動

- ・作業をする方がいなくなり、更新が滞ってしまう。→人材の育成
- ・ウェブ担当者が1人ではなく、複数の方で行い、若い方にも参加できるシステムをつくるため、研修やフォローアップが大切である。→世代間の引継ぎ
- ・モチベーションの維持→電子町内会のパネル展、利活用コンテストの開催
- ・普及活動→電子町内会の意見交換会を実施

□所感

岡山市では、市民情報化サイト 岡山市電子町内会の取り組みについてお話を伺いました。

地域情報化を推進するために情報を効率的に伝える手段として、電子町内会を平成14年からスタートし18年が経過しています。電子町内会に参加されている町内は、天然記念物であるアユモドキの保護やラジオ塔の復元など、地域の特性や歴史を町内会で継承し発信することで、遠く離れていても郷土に親しむことができたり、地域愛を育むことができ、地域の活性化につながっているそうです。また、従来通りの回覧板もありますが、情報の周知をQRコードを用いて行っているとのことでした。

ただ、電子町内会の体制として、町内のウェブサイト管理者が参加会員の登録・管理や情報の発信などすべてを任されている状況で、非常に負担が大きくなっています。しかも、インターネットを使ったり、タブレットやスマートフォンを使用するとなると、若い世代の方が主導なのかと思っておりましたが、実際には運営側の高齢化が問題になっているということでした。ウェブサイト管理者をはじめとする町内会運営側の負担が大きくなるように、また、若い世代を含めた町内の方が関心の高い情報(防犯・防災情報や身近な生活情報)を取得できるように、情報メールを市から発信するなど、区とも連携しての取り組みが必要になってくるのではないかと感じました。

本市においても、さまざまな情報を回覧でお知らせしていますが、情報の周知が十分ではない状況だと思いますので、電子町内会のような取り組みを研究し、すすめていくべきだと考えます。